

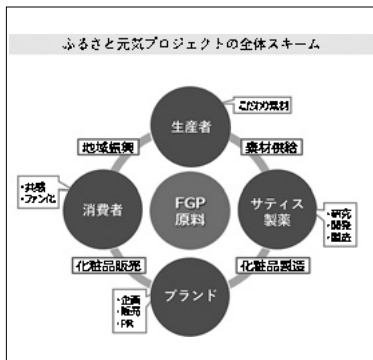
サティス製薬が原料開発100種到達

2010年開始「ふるさと元氣プロジェクト」累計

化粧品の出荷数も2700万個超に

D2C市場に特化したスキンケア化粧品の開発・OEM製造を行うサティス製薬(埼玉県吉川市、山崎智土社長)は8月3日、同社が2010年に

開始した「ふるさと元氣プロジェクト」で開発を続けてきた化粧品原料の種類が今年7月、100種類に到達したことを発表した。



原料素材



生産者と研究員

「ふるさと元氣プロジェクト」は、日本各地の天然素材から肌に有用な新規化粧品原料を開発、それらを配合したスキンケア化粧品の販売を通じて、ユーザーの肌を綺麗にすることと素材の生産地活性化の両方を目指すサティス製薬の独自プロジェクトである(図・写

真参照)。同プロジェクトでは特に、需要の低下など様々な要因から途絶えてしまいがちな天然素材とその生産地に着目。同社の技術で有効成分の含有量が高く、安定的な国産天然由来原料として加工しスキンケア化粧品に配合している。

「ふるさと元氣プロジェクト」は、当社の使命

「ふるさと元氣プロジェクト」による開発原料の事例はhttps://www.satiss-pharm.co.jp/rd#anc_furusatoに。同プロジェクトの詳しい内容は、同社研究所・03-5646-2434か<https://www.satiss-pharm.co.jp/form>まで。

である化粧品を通じて人の肌を綺麗にすることと同時に、素材の魅力や生産者のこだわりを化粧品を媒体として全国に流通させ、知名度向上や地域振興により生産者へ還元するもの。開発原料はいずれも『この植物だからこそ』、『この土地だからこそ』、『この育て方だからこそ』の掛け合わせでナンバーワンの肌への有効性を作り出されており、さらさらに生産地の文化や生産者の想いが重なることで唯一無二のストーリーを持った原料となっている(同社)。

同社によれば、同プロジェクトから生まれた様々な原料を配合したスキンケア化粧品の年間出荷数は、プロジェクトが発足した2010年は14万個であったが、2022年には2700万個以上へと増加、現在も多くのブランドやユーザーからの賛同を集め、「共感と支援の輪」が年々広がっているという。